

人間関係なんて 数学の問題解くよりも 難しいのだ 第2部

本日の「大先生のためになる話」は先週に引き続き人間関係のお話。

今週の文は女の立場。2人の女子大生の書いた本の中の一文。

その本とは「ANO ANO (あのあの)」といい、うちにあるのは文庫版(徳間文庫)。1983年初版だから、もとの本はきっと1970年代後半に出たものだろう。女子大生のあからさまな(?)実体、本音を書いた本として評判になったものだ。

ちなみに、その「ANO ANO」が売れたあとすぐに、それをまねて、おじさんの本音を書いた本「SONO SONO (そのその)」が出た。著者は滝大作、赤塚不二夫、タモリ、といったメンバーで、おじさんとしては、おじさんの本音の本がまたおもしろいんだな。

また話がそれた。この一文は「ANO ANO」の中の「女の集団生態学入門」である。ま、くっついたり離れたりの女の子たちの話を女の子が書いてるってこと。

それとこの本だったか、どこかに「第3項排除の論理」というのがあって、探したが、分からない。簡単に言えば、「2人の女の子を仲よくさせるには、3人グループを作ればよい」ということ。何これ?と思うでしょ。3人の女の子が仲良くなるのは実は大変。2人でのおしゃべりは得意。だから、3人いれば、必ず一人は仲間外れにされるってこと。その一人は、2人の会話にうまく入れない。そして、その一人をだしに、2人の結びつきが強くなる。つまり「2人の女の子を仲よくさせるには、3人グループを作ればよい。」ということ。

これは逆に言えば、「2人の女の子を仲たがいさせるためには、3人グループを作ればよい。」ということ。AとBのグループにCが加われば、AとCが仲良くなれば、あつというまにAとBの仲が悪くなるってこと。BとCが仲良くなれば、これでもAとBの仲が悪くなるけどね。

つまり、女の子は3人グループがうまくいかないという「第3項排除の論理」

要するに女の子は偶数を単位として行動するってことかな?

そういえば、行事に食事に掃除、これらの時間の女の子を観察するとおもしろいものだよ、男子諸君。どんなグループを作っているのか、いつくっついていつ離れるのか、こんなことを見ているとなかなか人間観察ができるものです。そして、掃除時間に働く子は誰なのか、さぼる子は誰なのか、しっかり見るとおもしろいよ。(おっと失礼。女の子は観察の対象じゃないよな。)

でも、もしかしたら、中学校の同級生で結婚する2人が出るかもしれないよ。

前も言ったかな、中学1年生のときに担任していた2人が結婚した話。女の子は副会長だった。何事も真面目にやる子だった。方や男の子の方は野球部で、スポーツマン。でも文章書かせるとおもしろく、学級の新聞の編集委員などをしたりした。

この彼は実は中学1年生のときから彼女に目を付けていたらしい。でも中学生時代には声をかけられなかったという。

しかし高校生になってから意を決して、電話をして、合うことになったらしい。彼女の方はいったいどうして電話がかかってきたのかは、はじめはピンとこなかったということだ。だが、高校生になってつきあうようになってからは、彼女の方がより夢中になったという。

そんな彼らの教会での結婚式に仲人となって出席した。今では結婚して、子どももいる。
ま、このように人間いつどこでどのような縁があるか分からない。
男子諸君、これぞと思う女の子に目を付けておくといいかもね。
また話がそれちゃったよ。では再度担任よりもメッセージ。

いろいろな人がいる。

まずそれぞれが違うことを認めよう。

好きなやつもいれば、嫌いなやつもいる。

それも当たり前なんだけどね。

だから、友達になったり、ケンカ別れしたり。

そりゃこう考えるしかないな。

お互いがちがう人間だと認めること。

お互いが一人一人独立していると認めること。

別に友達にならなくていいのさ。でも、意地悪はやめとけ、いじめもやめとけ。自分のいやなことは人にもするな。

だけど人間、一人一人は孤独なのだ。なんだかんだ言たっていつも一人だ。

だけど、**連帯は孤独から生まれる。**

鳴和中学校
3年6組
学級通信

ΕΥΕΡΓΕΙΑ

エネルギー
No. 50 - B
2000.6.2

おまけ

教育改革国民会議座長緊急アピール

平成12年5月11日
教育改革国民会議座長
江崎 玲於奈

青少年による衝撃的な事件が続いている。教育改革国民会議はこのことを真剣に議論した。学校や家庭、社会の状況は非常に深刻であるが、しかし、あきらめないで国民の皆様とともに時間をかけて取り組んでいきたいと考えている。私は、会議の議論をふまえ、国民の皆様、今、次のことを強く訴えたい。

まず、子どもたちに言いたい。

あらゆる失敗は回復できるが、自殺と殺人によって失われた命は二度と回復できない。

国民の皆様、次のことを訴えたい。

子どもを見つめ語りかけてほしい。その上で、自分の子どもも他人の子どもも、ほめるべきはほめ、叱るべきときは叱ろうではないか。

また、子どもに関わる社会のそれぞれの場で、子どもが悩みを相談できるように考えてほしい。相談を受けたら、決してたらい回しにしないでほしい。

このアピールは、始まりであり、国民会議は、よりよい明日の教育をつくるために、国民の皆様とともに考え、歩んでいきたい。